

2010年度は、4月から心臓血管外科が専門の佐々医師が就任し、循環器領域をはじめ、専門分野以外の疾患も積極的に診療をしてもらったことで、多くの患者さんの診療を行うことができた。二人で担当した患者数は438名と前年より100名以上の増加であった。そのうち、循環器疾患は120例であった。

それらの内訳は、心不全が最も多く44例、虚血性心疾患30例、弁膜症12例、不整脈11例、血圧関連10例、血管疾患8例などであった。みすみ病院では今年度、初めて末梢動脈や静脈の手術を6例行うことができた。急性心筋梗塞は22例(CPAOAを除く)あり、うち19例を済生会熊本病院に搬送して急性期治療を行った。

急性心筋梗塞	22
狭心症	30
大動脈疾患	8
心不全	44
不整脈	11
弁膜症	12
末梢血管手術	6

循環器疾患以外では、肺炎などの呼吸器疾患の患者がもつとも多く87例であった。糖尿病などの代謝疾患29例、尿路感染症などの腎関連疾患26例など、当院に常勤医のいない分野の疾患をカバーした。また、佐々医師は、整形外科や脳外科などの手術応援も行い、みすみ病院全体の診療の穴をしっかりとカバーしてくれた。

当院では、どの診療科でもそうであるが、高齢化が着実に進んでおり、平均年齢は、数年前に78歳であったものが、今年度は80.9歳(中央値83歳)となった。

一方、外来診療では毎月約900～1,000人の患者の診療を行った。循環器専門医としての診療はこのうち約1割程度であるが、地域の医師の減少などもあり、生活習慣病コントロールの患者が増加している。外来患者の約1/4が糖尿病といった状況である。

循環器関連の検査も、前年は電子カルテ導入の影響などもあって減少したが、今年はいずれの検査もやや増加している。

	2009	2010
心エコー	1,247	1,625
負荷エコー	65	36
トレッドミル	73	86
ホルター	127	136
頸部血管エコー	140	261
下肢血管エコー	148	277
ABI	164	286
心臓CT	17	21
血管CT&MRI	106	127

